

～「本のまち」から～

聖籠町立図書館通信

2023.4

No. 26

2023年4月1日発行

編集・発行 聖籠町立図書館

URL <http://www.lib-seiro.jp>

MAIL info@lib-seiro.jp



図書館の棚卸～蔵書点検～



商店などで、品物の在庫を確認する棚卸。図書館でも、同じように在庫＝本の状態を確認する「蔵書点検」という期間があります。これは、『確かにその本はあるか?』『きちんと分類通り並んでいるか?』『傷んでいる本はないか?』などを確認して、公共の財産である図書館の蔵書を守り、利用者の皆様に快適に使っていただける棚を維持するために行っています。



棚の中で『順番通りに並んでいるか』『分類の間違ひはないか』など確認しながら…



本をブックトラックに積んで…



一冊一冊、登録されている本の情報を確認しながら、所蔵を確認します



空いた棚は、綺麗に拭いています



閉架書庫の本も、移動図書館車の本も、もちろんすべて点検します



傷んでいる本が見つければ、修理を行います

(写真は修理の講習会の様子)

令和4年度時点の図書館の蔵書数は172,391冊。貸出し中などを除くと、165,000冊の本を点検しました。うち、今年度判明した不明本は26冊でした。



今号のおすすめ本

『ほんのまち』を愛する図書館員のおすすめの本をご紹介します。今回は、誰よりも聖籠町の図書館を知る副館長・Tさんのおすすめ本です。

「新しい星」

彩瀬 まる／著、文藝春秋

引きこもり、病、コロナ…
様々な今の社会問題と大学時代
を共に過ごした男女4人の友情
を通した物語。
静かに心が動かされました。



「ムスコ物語」

ヤマザキ マリ／著、幻冬舎

とにかく自由で愛情豊かな
ヤマザキマリの子育て放浪記。
絶対に「ムリ」と思っても、
どこか懂れる。最後の息子の
文章には感動。



「砂に埋もれる犬」

桐野 夏生／著、朝日新聞出版

貧困の連鎖、家族から愛情を
受けないまま育つ子どもの向か
うところ…
生きるために進む親と子の末路。
心が痛い。



「28文字の捨てかた」

Yur.3／著、主婦の友社

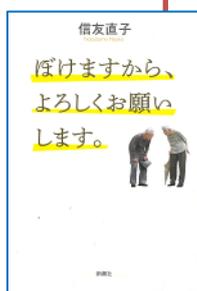
「捨てられないもの」よりも、
「持ち続けたいもの」が何なの
かを見つける事の方が大切…。
一つ一つの言葉が納得です。



「ぼけますから、よろしくお願ひします。」

信友 直子／著、新潮社

辛い時は周りの人に頼る勇気を持つ。
そして、自分が頼られた時は喜んで応えて
あげられる優しさと想像力を持つ。
この本から多くのことを学んだ。



「良い本」って何だろう…？

いつも考えてきました。

『ふと手に取った本が、少しでもその
人の心を動かすことがあれば、
また次の本を手にとってくれる』
そう思って、本を手渡す仕事を
してきました。聖籠町に、読書の花が
たくさん咲きますように！



聖籠町に、たくさんの読書の種をまいてきたT副館長。町の図書館が町民会館の中にあつた時から34年間、ずっと司書として町の図書館を支えてこられました。2023年3月をもってご退職されましたが、T副館長の読書への願ひは、聖籠町の読書活動を照らす光となって灯り続けます。



聖籠町立図書館
SEIRO TOWNSHIP LIBRARY

〒957-0117

新潟県北蒲原郡聖籠町大字諏訪山 1560 番地 1

電話番号：0254-27-6166 FAX：0254-27-6167

